

湯野上温泉

1. 概要

湯野上には、明治17年（1884年）の新日光街道（国道121号）の開設などがあり、古くから加登屋などの商人宿があったのですが、温泉宿として最初のもは、明治20年（1887年）ころに営業を開始した清水屋だと言われています。その後昭和30年代になると電力による2ヵ所の給湯設備が完成して、これによって各旅館への給湯が可能になり、各旅館は容易に内湯を持つことができるようになりました。昭和40年代に入ると、新たに旅館・民宿が営業を始め、その後も少しずつ宿が増え、現在は旅館・民宿を合わせると約25件ほどの温泉街に発展しました。また、湯野上温泉は掛け流しでやれるほど湯量が豊富で全国でもあまり例をみないほどで、家族扶養型の温泉街で、埋蔵量は毎分約3000ℓと言われています。使用量は2000ℓで旅館、民宿25軒と一般の家庭も合わせて約100戸に供給しています。湧き出る湯の温度は60度前後で、源泉による違いはありません。

2. 伝説

〈猿湯〉

温泉より約半里（2km）奥に入ったところに大沢部落がある。昔、その加藤某という猟師が1匹の猿を射ったところ、その猿が手負いとなり、湯の原（湯野上）に来て入浴し、その傷をいやしたといわれ、そのことからこの源泉を猿湯と名付けたと言われている。

〈安楽湯〉

昔、高倉以仁王は源頼政の弟が越後頸城郡の城主であったので、これに赴かんと山本村（大内）に差しかけた。そのとき、柳津の住人で石川冠有光という人が大内峠で迎え撃ち、このため越後城主の従者渡部某がけがを負ったので山をおりて水を探していたところ、岩間から温泉が湧き出ているのを発見して、その傷を治したという。そこで安楽湯と名付けられた。

3. 効能

一般的適応病（浴用）	一般的禁忌病（浴用）
神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、慢性消化器病、痔疾、冷え性、病後回復期、疲労回復、健康増進	急性疾患（特に熱のある場合）、活動性の結核、悪性腫瘍、重い心臓病、呼吸不全、腎不全、出血性疾患、高度の貧血、その他一般に病勢進行中の疾患、妊娠中（特に初期と末期）

4. 源泉名・成分等

湯野上温泉 1～8号まで源泉がある

泉質 低張性弱アルカリ性高温泉

1～8号までの源泉の成分はほとんど変わらないが、多少温度差はある。

泉温 48℃～59℃

5. 湯野上温泉

古くは、湯野上集落の祭りも小野の観音様の祭りの日に一緒に行っていましたが、昭和26、7年ころ湯野上は独自の祭りを作ろうということで始められました。土用の丑の日に温泉に入ると長生きするという昔の言い伝えにより、毎年土用の丑の日に行うことに決められ、昭和35年頃からは観光客を誘うことを主な目的に実施するようになり、近年は多彩なイベントが行われています。

6. 湯野上温泉駅舎〈大内宿の玄関口〉

会津若松～会津高原間を結ぶ会津鉄道の駅の一つに湯野上温泉駅があります。日本で唯一の茅葺き屋根の駅舎であり昭和62年12月に完成しました。東北の駅百選に選ばれており、また、春には線路沿いにある桜の開花が見られる。

7. 大川露天風呂

平成21年閉鎖

11 種類の泉質について

泉質名	特徴
① 単純温泉	特にpH8.5以上の単純温泉はアルカリ性単純泉とされる。含有成分が薄い分、身体への刺激が少ない。そのため禁忌病も少なく、肌の弱い人や高齢者に向いている。
② 酸化炭酸泉	炭酸ガスを含んで湧出する温泉で、入浴すると炭酸ガスが皮膚を刺激し、毛細血管を拡張させるので、心臓病や血圧降下には効果が高い。また、飲用すると胃腸病や肝臓病、糖尿病、痛風などにも効果がある。
③ 炭酸水素塩泉	皮膚の脂肪や分泌物を清浄化するかも、肌が滑らかなり、「美人の湯」と呼ばれることが多い。飲用すると沈静作用がある。
④ 塩化物泉	塩分を含む温泉。入浴すると塩分が毛穴をふさぎ体温の発散を抑えるので、浴後の保温力に優れ、湯冷めしにくい。神経痛、リウマチ、陣痛、打ち身、手足の冷えやしびれ、婦人病、創傷、火傷、術後の保養のほか、飲用すると胃腸病や肝臓病、冷やして飲むと便秘に効果が高い。
⑤ 硫黄塩泉	マグネシウム、カルシウム、ナトリウムなどを多く含み、大別すると、便秘や胆道疾患に効く芒硝（ぼうしょう）泉、鎮静効果に優れ高血圧や動脈硬化の予防や神経痛・リウマチなどにも効果が高い正苦味（せいくみ）泉に分かれる。「中風の湯」、「傷の湯」ともいわれる。
⑥ 含鉄泉	鉄イオンを含む温泉。多くは湧出時は透明な温だが、時間を経るにしたがって泉水中の鉄分が空気に触れて酸化し、さび色に変色する。よく温まることから「女の湯」とも。酸化する前に飲用すれば貧血病に効果が高い。
⑦ 含アルミニウム泉	アルミニウムイオンが含まれる温泉で、鉄分や銅などを含み、その構成で明礬泉、緑礬泉、酸性緑礬泉の3つに分かれる。口に含むと強い渋みと鉄分のおいが感じられ、造血作用があるので貧血や月経不全、不妊病にもよいとされる。明礬泉は眼病や多汗病、皮膚病などに効果を示す。
⑧ 含銅一鉄泉	
⑨ 硫黄泉	火山が多い日本特有の温泉で、単純硫黄泉と硫化水素泉に分類される。硫化炭酸ガスが含まれるため、独特のおいと白濁色の湯が特徴。毛細血管を広げ、血圧を下げる作用があり、浴用、飲用ともに療養効果は高い。温泉治療に適した泉質である。
⑩ 酸性泉	殺菌力が強く、細菌性の皮膚患者に特効を示す。多くは硫黄泉、明礬泉、硫化水素泉との混合で湧出している場合が多い。無色か薄い黄褐色の湯は、口に含むと酸味がある。
⑪ 放射能泉質	微弱な放射能を含み、吸入や皮膚からの吸収により、循環器障害を改善したり、不妊病にも効果がある優れた温泉。放射能自体が湧出と同時に発散してしまうので、循環式の浴槽には効果がない。

中山風穴地特殊植物群落

1. 風穴のなりたち

「風穴とは」地中の岩や石の隙間から冷たい隙間から冷たい空気が吹き出る場所のことをいいます。地震や大雨、なだれなどが原因で起きる崖崩れや、岩に染み込んだ水分の凍結などにより、ボロボロに崩れた岩が堆積して出来たと考えられます。なお、形成時期については、不明です。

2. なぜ国の天然記念物になったか

風穴の周りでは風穴の冷気によって、周囲と全く異なった特殊な植物群落がみられます。このような群落を「風穴植物群落」といいます。

中山風穴は、国道121号線沿いの湯野上温泉の南、標高855.6mの中山（通称金塚山）の東面と南面山腹にあり、近接する塔のへつりとともに、大川羽鳥県立自然公園の第2種特別地域にあります。標高550m地帯に通常は1500m～2000mの高山帯で生育する植物が群生する「中山風穴地特殊植物群」として昭和39年6月27日に国の天然記念物に指定されました。第1指定地から第6指定地まで6ヶ所あり、面積は8954.27㎡です。

3. 中山風穴の歴史

昭和30年6月塔のへつりで、土産物の製造と販売を営んでいた北村キクさんが中山から一輪の花を採集し、この花の名前を地元の植物研究家安藤良弘氏に聞いたことから、中山風穴の植物に注目が集まり調査が始まりました。石ガラの多いこの地域は、昔から農耕に適さず牛馬の肥料を生産する採草地として利用されてきました。良質な草や茅を得るため、春早く共同作業による火入れを実施してきました。また、濡れ出す冷気を利用して蚕種を保管・管理し、その成長を調整したり、野菜や果物の保管などにも利用されていました。昭和30年頃から火入れが行われず、指定地周辺はもとより、保護管理区域としている柵の内部においても、木が成長し指定時とは異なった環境になりました。特殊植物にとっては、日照不足による生育不良や腐葉土の堆積増加が、風穴気孔の縮小につながり、植物の減少あるいは絶滅までもが心配されるようになりました。そこで、指定地内の伐採、および指定地周囲を伐採し日照不足を解消し、植物の保護に努めています。

4. 風穴の種類

日本の風穴には、鍾乳洞で有名な秋芳洞などの「溶岩洞窟」のタイプと積み重なった岩石の隙間から冷気が吹き出す「累石型風穴」のタイプの2種類があります。中山風穴は後者の累石型風穴です。累石型風穴は冷気を吹き出す穴より高い位置に外気を吸い込む穴を伴っています。

5. なぜ風穴から冷風がでるのか

有力な説は、冬に地中の水分が氷になり蓄えられ、それが夏になって温かい空気を冷やすという説です。夏は上方の穴から空気を取り込まれ、風穴の中で冬に作られた氷や冷やされた岩くずによって冷やされ、下方の穴から冷たい空気となって吹き出します。冬は下方の穴から冷たい空気が風穴に入り込み地下水を凍らせながら上方の穴から吹き出します。上方の穴を温風穴、下方の穴を冷風穴といいます。外気が30℃ある夏でも、吹き出す空気は5～10℃という冷気で、そのため湿度は高く、特殊な植物が繁殖するので。

6. どんな植物が群落しているか

野草名	開花期
キバナイカリソウ	4月下旬～6月中旬
ミヤマハタザオ	5月上旬～11月中旬
アイヅシモツケ	5月中旬～8月中旬
ベニバナイチヤクソウ	5月中旬～10月中旬
ウスノキ	5月下旬～6月中旬
オオタカネバラ	5月下旬～7月上旬
カワラマツバ	7月上旬～9月中旬
ヤナギラン	7月中旬～9月中旬
サラシナショウマ	7月中旬～10月下旬
アキノキリンソウ	9月上旬～10月下旬
その他	ウサギシダ タチハイゴケ

7. 注意事項

- 指定地内の植物は絶対に採らないこと。(枯枝1本、落ち葉1枚持ち帰ることも禁止されています。文化財保護法により処罰されます。)
 - 指定地内には、絶対に入らないこと。
 - タバコの吸殻やゴミの投げ捨ては絶対にしないこと。
 - ゴミは必ず持ち帰ること。
- 心無い人のために盗掘され、アツモリソウやムラサキは見られなくなりました。自然保護を考えながら観察してください。

8. 平成16年には、トレッキングコースとして整備されました。

塔のへつり

(塔のへつり駅から徒歩5分)

指定月日 昭和18年(1943年)8月24日 国指定天然記念物に指定されました。

- ① 下郷町湯野上温泉の南方2.5kmの阿賀川右岸にあり、層理の発達した凝灰岩質の地層(新第三紀層)が、長年日わたる水流や風雨の浸食作用により、塔状の奇観を示すようになりました。

水流によりえぐられた河床の地層が、地盤の隆起をとまなう下刻作用の進行とともに風雨にさらされ、軟らかい部分がさらに流出し、へこみを作ったため、硬い部分がひさし状に張り出し、さらにまた縦の節理にそっても浸食が進んだため何層にも重なる塔状の形になりました。地層中に細い層理がほぼ水平に発達していること、間にシルト岩質や砂岩質の地層が適当な間隔で挟まっていること、また流路の変化など、いくつかの原因が重なって形成されました。へこみの痕跡と段丘との対比から、塔のへつりの形成は、更新世後期の初めころ(12~13万年前ごろ)から行われてきたものと推定されています。初夏には奇岩にヤマフジが垂れ下がり、秋は紅葉が美しく景観にも優れたものがあります。

新第三紀層・・・2800万年前から100万年前に出来た地層

- ② へつりの由来

塔の形をした川畔の急崖という意味から塔のへつりと名付けられました。「へつり」は方言で川に迫った断崖とか、急斜面の意味です。「言海」によれば、「へつる」は「けずる」と同語であり、絶壁や川岸などの険しい路と解する例もあります。

- ③ 岩や石の名前

大川にかかるつり橋を渡ると、正面の岩名には虚空蔵堂が祀られています。塔のへつりには形状によって、さまざまな岩の名が付けられています。その形の特徴で、鷲谷岩、鷹塔岩、獅子塔岩、屋形塔岩、櫓塔岩、九輪塔岩、象塔岩、護摩塔岩、烏帽子岩、屏風塔岩、舞台岩、土俵岩があります。

水際近くには陰石、陽石、ワニ口石、夫婦石などイメージ豊かな石の名前も付けられています。

- ④ へつりの四季

塔のへつりの四季はそれぞれに美しいものです。新緑から深緑へ、紅葉から雪化粧、色彩鮮やかに変化する眺めは、まるで、一幅の名画です。初夏の頃、藤の花が咲き乱れる景観は素晴らしく。藤見公園の別名もあります。

観音沼

(みたらし沼)

- 会津鉄道養鱒公園駅から車で約15分
- 駐車場2カ所

この辺一帯は、約150万年前には那須火山による巨大火口状の凹地だった所で、観音沼のある野際地区を挟む二つの谷～加藤谷川と観音川は火山岩の台地を削りながら深く切れ込んでいます。また、台地の表面を覆っている約17000年前の旭岳（1830m）の噴火による火山岩の岩屑は岩屑泥流となって、長い年月をかけて南倉沢と野際の間を埋め尽くし、阿賀川に至っています。そして、そこにはたくさんの小凹地ができ、その一つに水が貯まったのが観音沼です。

現在では、観音沼森林公園として整備され、下郷町の観光の一つの目玉となっています。

1. 沼

面積約8haの沼、中央に浮島があり、浮島特有の植物（湿原植物）が生えています。沼には、ヒツジグサやその他の水性植物が生えています。

2. 樹木や草花

野生の樹木や草花のほかに、園芸種の樹木や草花が植えています。

ミズバショウ、コブシ、ツツジ類、ヤマブキ、ネムノキ、ヤマボウシ、ナツツバキ、アジサイ、ハギ、ヤマユリ（群生地）、モミジ類、ニシキギ、サクラ類、ガマズミ等

3. 遊歩道

観音沼を見渡しながらか一周できる、9コースの遊歩道があります。

つくろぎの径、ぬくもりの径、はなやぎの径、かたらいの径、しあわせの径、あこがれの径、やすらぎの径、ほほえみの径

4. 憩いの広場

沼を一望できるところに芝草を張った広場が4カ所あります。

5. 建物・その他

管理棟、あずまや3棟、駐車場2カ所、トイレ1棟、水飲み場4カ所

● 自然環境

観音沼は、周りが森林に囲まれ、標高（海拔900m）、東部に観音山（1640m）がそびえ立ち、北部は南倉沢集落に続く山地です。西部は、加藤谷川に沿って、標高700m台の十文字原、川を挟んで音金集落があります。南部には、加藤谷川の上流のニゴリ沢の原流となる、土倉山、三倉山、大倉山、流石山、三本槍岳の高山が連なっています。

観音沼の特徴は、沼の中央部に浮島があることです。浮島は、泥炭層と植物（ミツガシワ）の根でつくられ、他21種類の植物が生育しています。沼に浮いている島のようなもので、浮いている湿原です。

この浮島には、湿原植物や湿原に生息する動物がいることから大変貴重な沼です。昭和59年に浮島であることを確認しました。

日暮滝

加藤谷川の支流である鎧沢にかかる滝で、上は約 40 メートル、下は約 15.6 メートルの二段に分かれて落下しています。深い山合いにとうとうと流れる水しぶきが周囲の幽谷にくっきりと映え暑さも吹っ飛びます。深緑・紅葉の時期が見頃です。展望台もあり、そこから続く散策路は滝つぼ近くまで続いています。江戸時代の初期、会津藩主加藤嘉明の長男 明成が二代目藩主を継ぎ、江戸から会津入りする際、下野国黒磯（栃木県）から馬道がひかれていた三斗小屋を経て大峠を超えました。険しい峠を越えて谷川べりに対岸を望み、滝の景色をいた明成は、自然の生んだ大パノラマに心を奪われ、岩に腰を据えて日が暮れるまで動かなかったといひます。ここから日暮滝の名が付き、谷川も加藤谷川と呼ばれるようになったといひます。

猿楽台地

- 最寄駅からの所要時間／会津鉄道養鱒公園から徒歩 30 分、
会津田島駅からタクシーで約 20 分、
会津下郷駅からタクシーで約 15 分。
- 面積／40ha
- 時期／8月下旬～9月上旬

裏那須の裾野に広がる「猿楽台地」は、昭和40年代に国営農地開発事業により整備された広大な農地です。平成元年に1人の農業者がそばをまいたところ、非常に品質の高いそばが収穫できたことから、その後栽培が増え、現在は40haと全国でも有数の面積を誇り、この畑にそばの花が一面に咲き誇り素晴らしい景観を作り上げています。毎年8月下旬～9月上旬頃、裏那須を背に、高原のさわやかな風にゆれる白く小さい清楚なそばの花が咲き、県内外から多数の観光客を魅了しています。

また、風景写真の撮影スポットとしても脚光を浴びています。平成10年度にはこの猿楽台地のそば畑が、農林水産省等主催の「第7回美しい日本のむらコンテスト」の生産部門で農林水産省大臣賞に輝いています。

※猿楽台地のそば

もともと、下郷町は昼夜の寒暖の差が大きいことから、そばの収穫に適した気候となっており、高品質の“そば”が収穫されています。

ここで収穫された“そばの実”は、生産者の手により“そば粉”となり「会津猿楽そば」や「大内宿」、「下郷町物産館」などで手打ちそばをご賞味頂けます。

桑取火カタクリ群生地

- 駐車場有／（普通自動車8台程度）
駐車場より徒歩3分
- トイレ有

下郷町桑取火（くわとび）地区には、約2ヘクタールに広がってカタクリが群生しています。紫色の下向きに咲く花の姿は、早春をいち早く飾る花として可憐さを漂わせます。

桑取火地区は、下郷町の西部阿賀川支流戸石川に流入する桑取火川流域の山間に立地する地区で、自然環境に恵まれ小さな集落です。また、昭和初期まで現存していた水車・バッテリーを復元し、昔ながらの農村風景を今に残そうとしている地区でもあります。茅葺き屋根の家はほとんどなくなってしまったものの、水車・バッテリーとマッチした自然風景は目を見張るものがあります。

カタクリの開花時期は4月下旬から5月上旬で、カタクリ群生地の間をぬうように約2kmにわたって落葉樹林の中を通っている遊歩道は、カタクリ群生地の観賞はもちろん、自然散策やハイキングコースとしても最適です。このほか「一輪草」をはじめとする数多くの花々も観察することができ、訪れる人々の心を和ませています。

※「カタクリ」

高さは15cm程度で、全体的に柔らかく無毛である。2枚の楕円形の葉の間から1本の花茎を立て、1個の美しい紅紫色の花を開く。毎朝開き、夜は閉じる。開花までは8～10年かかると言われている。りん茎から取れるでん粉が片栗粉であるが、一般に市販されている片栗粉は馬鈴薯から製したでん粉が主である。

（単子葉植物 ユリ科 *Erythronium japonicum* 多年草）

戸赤の山桜

- 見頃／4月下旬～5月初め。
- 交通／会津線会津下郷駅からバスで25分、戸石下車

「戸赤地区」は24世帯の集落で、美しいオオヤマザクラなどを「留め木」として、明治時代から100年以上も大切に守り続けてきました。

林業で生計を立てていた住民たちが、自分たちの生活を守る為、桜のほか栗、ホウノキ、クルミ、ケヤキの5本の留め木に定め、個人が勝手に伐採することを禁止しました。

桜は花を見るためばかりでなく、種子播き時期など農作業の目安にして、栗は実を売って生活費の足しにしました。ホウノキは家の障子戸や引き戸などの材料に利用しました。さらにクルミは下駄や経木など、ケヤキは新築の家の大黒柱として使う目的がありました。

このうちオオヤマザクラは高さ約30m、樹齢200年以上（推定）の古木ばかりです。この他にもヤマザクラもあります。また、向山一帯には、遊歩道やあづま屋なども設けられ、ゆったり、花見が楽しめます。